

「共生社会の担い手」の育成に関する研究 ～多様性を認め合う集団づくりを中心に～

研究の背景

- 国際的な障害観の転換
 - ・障害の捉え方が「医学モデル」から「社会モデル」へと転換され、多様性を前提とした社会の在り方が重視されるようになってきている。
- 共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築
 - ・障害のある子どもと障害のない子供が同じ場で共に学ぶことを可能な限り追求するとともに、個別の教育的ニーズに最も的確に応えることができるよう連続性のある「多様な学びの場」の提供が必要とされている。
- 学校支援を通じた現状把握から
 - ・これまでの特別支援教育の実践を通して、特別な配慮を必要とする子どもの困難さを改善したり軽減したりする取組やその子の困難さに配慮した授業づくりが進んできている。一方で、次のような課題も散見された。
 - ◇困難さの背景要因を十分に捉えきれず、学級経営や授業づくりに支障が生じている状況。
 - ◇授業そのものの質の担保や特別な配慮を必要とする子どもを含んだ集団づくりの視点が不十分。

研究の目的

- 共生社会の形成に向けて学校教育で大切にしたいこと
 - ・通常の学級における集団づくりの在り方
 - ・通級指導教室との連携の在り方
 - ・通常の学級と特別支援学級との交流及び共同学習を進める上での要点を明らかにしてブックレットにまとめる

研究の内容

～これからのインクルーシブ教育を見据えて～
「子供とつながる・子供をつなげる」
～多様性を認め合う集団づくりを中心に～

本刊行物は、共生社会の形成に向けて、学校教育で大切にすべきことを示した〈理論編〉とその理論に基づいた指導の実際を紹介した〈実践編〉で構成している。〈実践編〉では、通常の学級における「多様性を認め合う集団づくり」「通級指導教室と通常の学級との連携」「交流及び共同学習の在り方」について具体的な取組を示している。



研究の活用・発展

- ・ブックレットをWebページ等を通じて発信することで、学級経営や多様な学びの場との連携を進めていく上での一助とする。
- ・学習指導や学級経営に関する研修講座及び研修支援、学校コンサルテーションの際に活用し、「共生社会の実現」に向けた通常の学級における授業づくりを含めた学級経営の視点を広げることができるようにする。